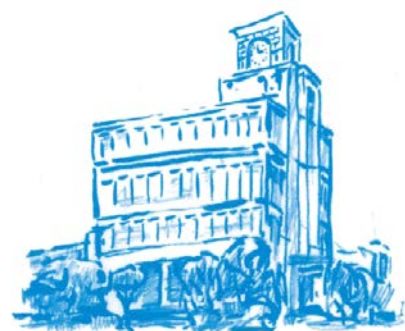


本物の教育者
—職人技と研究者としての資質—

伊丹市立総合教育センター
所長 永嶺 香織

9月末でもって「緊急事態宣言」が解除され、10月は延期していた修学旅行や体育大会などの学校行事を実施するなど、とても慌ただしい1ヶ月だったのではありませんか。

そのような中、天王寺川中学校を皮切りに、市内の「研究発表会」がスタートしました。今年度は幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校合わせて12の学校園で研究発表会が実施されます。本市には、このように「研究の風土」が根付いていることが大きな強みです。研究活動は、学校における教育活動の中で最も重要な活動の1つであり、子どもたちの未来を創るとともに、教員の資質の向上につながるものです。



「教師は職人と研究者の両方の資質を持たなければならない」と言われますが、どちらか一方だけでは、本物の教育者ではありません。日々子どもたちとの直接的な触れ合いによって培われる力量、いわゆる「職人技」と校内研究や様々な書物、研修会などへの参加等によって培われる力量、いわゆる「研究者としての資質」の両方が備わってこそ本物の教育者なのです。

教師は、どうしても経験知に偏重しがちですが、変化する社会や子どもたちに対応していくためには、常に学び続け、自分をアップデートしていかなければなりません。

もう1つは、データの活用です。現代社会では、ビッグデータの活用が注目されていますが、教育においても「データ駆動型の教育」が求められています。客観的なエビデンスに基づき、自校の子どもたちの課題を明らかにし、課題を改善するための授業改善です。客観的なデータは子どもたちからのメッセージなのです。

子どもたちの未来は、校内研究と客観的データの活用にかかっていると言っても過言ではありません。これからの社会が求める資質・能力を育成するためにも、経験だけに頼るのではなく、客観的なデータに基づいた研究活動による充実した教育を推進していただきたいと思います。

児童生徒の資質・能力を育成するための学習指導の改善・充実～令和3年度全国学力・学習状況調査結果から～

児童生徒の資質・能力を育むためには、児童生徒の課題を明確にし、計画的に学習を進めながら指導の改善・充実を図っていくことが重要です。また、学校や学年、教科ごとで改善方法を共有し、児童生徒全員が充実した指導を受けられるようにすることも大切です。令和3年度全国学力・学習状況調査結果の小学校国語を例に、計画の進め方についてお伝えします。

児童生徒の課題を明確にするために

問題を分析

【例】小学校国語 大問2-1-3

相川さんの学級では、身近にある便利なものについて調べています。相川さんは、面ファスナーを選びました。次は、相川さんが読んだ「資料」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料】

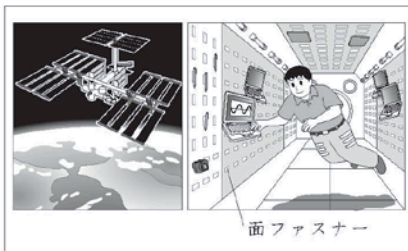
面ファスナー

面ファスナーは、かさやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくっついたり、はがしたりすることができ、とても便利な道具です。面ファスナーは、一九四八年にスイスで起こったあるできごとがきっかけで開発されました。狩猟のため、愛犬をつれて山に登ったジョルジュ・デ・メストラは、犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていて、気がつきました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実は先の曲がったかぎ状のトゲでおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。

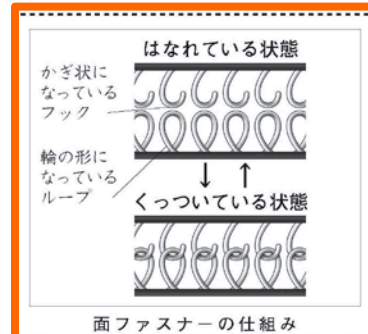
一九六〇年に、日本ではじめて面ファスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に伝わりませんでした。広く知られるようになったきっかけは、一九六四年十月の東海道新幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバー（頭をあてる布）の留め具として、面ファスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、短時間でヘッドレストカバーを交換する必要がありました。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬフックやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。誰もが注目する新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。

一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やかばん、かさなどの家庭用品をはじめ、サポーターや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていきました。布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることができ、面ファスナーが適していたからです。中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動くつでした。ひもくつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてしめぐあいを調節することができ、よさが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く熱にも強い素材で作られているものもあります。また、しっかりとくっつき簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中は無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ペンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるように使われています。

一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げられました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる便利さが追求されています。



国際宇宙ステーションとその内部



面ファスナーの仕組み

三 相川さんは、「資料」の——部を読み、面ファスナーのくっつく仕組みについて考えています。メストラは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出しましたか。次の条件に合わせ、書きましょう。

（条件）

- ヒントになったことと、面ファスナーのくっつく仕組みが分かるように書くこと。
- 「資料」の中の文章と——の「面ファスナーの仕組み」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十字以上、八十字以内にとめて書くこと。

出題傾向

身近なものを調べ、条件に合わせて、分かったことを記述したり、自分の考えを表現したりする力が問われている

文章や図表を結びつけ、目的に応じて、必要な情報を取り出すことに課題がある

対策

【言語活動の充実】

発達段階に応じ語彙を増やすとともに、その意味を理解し使えるようにする

【指導と評価の一体化】

あらゆる教科で条件に合わせ必要な情報を読み取り、記述する活動を多く取り入れる
評価において、このような資質・能力（読み取る力・書く力）が育成されているかを評価する



正答(例)
国立教育政策研究所HP



相川さん

教科書に出ている、問題に対応した教材

【大問2】

目的に応じて、文章全体の構成を捉えたり、必要な情報を見つけたりする力
(読む力)を問う問題

伊丹市使用教科書5年
(3・4年 C読むことウ)
P137「固有種が教えてくれること」

学習指導の改善・充実に向けて

【課題を明確にする】

- ・ 学力調査や定期テストの結果等、客観的な評価の利用
- ・ ノートや授業支援システム等、学習ログの利用

【課題解決のための計画を考える】

- ・ 年間指導計画等を見直しながら、単元で取り上げる指導事項を明確にする
- ・ 児童生徒の実態と課題をふまえ、単元を計画する
- ・ 学校目標や研究テーマに基づき、学校全体で取り組むことを意識する

【計画を基に指導の改善・充実を具体化する】

- ・ 児童生徒の課題と育成したい資質・能力を踏まえて教材を活用
- ・ ICT等を活用した効果的・効率的な授業作り

【指導の改善・充実について共有し 全体で取り組む】

- ・ 校内研究や教科部会等の場で授業の振り返りや指導方法の共有を行う
 - ・ PDCAサイクルを意識して定期的に計画の見直しを行い、児童生徒の実態に即した内容に修正する
- ※授業に活用できる効果的なツールや指導法は日々研究が進んでいます。積極的に研修に参加したり書籍を読んだりして、新しい知識を取り入れていきましょう。

児童生徒の資質・能力の向上

国立教育政策研究所から、令和3年度の全国学力・学習状況調査の調査結果の課題を踏まえた、授業改善のアイデアが紹介されています。参考にしてみてください。(令和3年9月発行)



令和3年第4回伊丹市議会における質問

令和3年第4回伊丹市議会（9月定例会）における、「ICT教育の進捗状況とオンライン授業の推進」の質問趣旨及び伊丹市教育委員会事務局の答弁を抜粋、要約して紹介します。

【質問趣旨】

教育環境の新しい展開が求められている中、本市におけるICT教育の進捗状況とオンライン授業の推進について、どのように考えているのでしょうか。



【答弁内容要約】（学校部長答弁）

本市における「ICT教育の進捗状況」につきまして、1人1台のタブレット端末を個別学習、一斉学習、協働学習のそれぞれの場面に応じて活用することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めているところです。

個別学習では、調べ学習を行ったり、**1人1人の学習進度や到達度に応じた学習指導等に用いたりすることで、個々の学びを把握し、個別の指導に生かしております。**

一斉学習では、授業支援システム等を活用し、課題の配布・回収を行ったり、プレゼンテーションアプリにより発表を行ったりすることで**授業の効率化**が図られ、教室等での一斉学習の改善が進んでおります。

協働学習では、グループ学習等にタブレット端末を用いることで、他者の考え等を共有することにより、**異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出していくことや、多様な意見との合意形成を図ることなどを通して自らの考えを深める授業**を実践しているところです。

また、学習だけではなく学校行事や児童生徒会活動等でもタブレット端末を活用することで教育活動の充実を図っております。このような取組を通して、子ども達の資質能力の育成が図れるよう、ICT教育についての研究実践を進めております。

「**オンライン授業の推進**」につきまして、**ICTを活用したオンラインによる授業は、時間や距離の制限を越えた学習を実施**することができます。

平常時であれば、多様な人材を活用してオンラインで繋がることで**教室だけでは体験できないような学習**を進めることができます。例えば一部の学校では、トライやるウィークの一環として、事業所と学校をオンラインで繋いで講演いただいたり、他校にいるALTと繋ぎ、英語の授業を行ったり等、遠隔による取組を進めております。

また、**緊急時**においては、**オンラインを活用して健康観察を行ったり、課題の配布や回収をしたり、Web会議システムを用いて学級活動やオンライン授業を行ったり**しています。**濃厚接触等により自宅待機を余儀なくされた子ども達に対しては、必要に応じてWeb会議システムを活用して授業を配信する等、子ども達とのつながりや学びを止めない取組を進めている**ところです。

オンラインでの授業実施にあたり、子ども達が学びを進めやすい方法や内容、家庭での学習環境等の課題はありますが、まず**子ども達の学びを止めないことを大切にし、工夫改善を積み重ねながら、オンラインによる授業等の質の向上を図ってまいりたい**と考えております。

今後もICTを効果的に活用して、子ども達の学びを充実させていくよう努めてまいります。

発行 伊丹市立総合教育センター
所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番
TEL 072-780-2480
FAX 072-780-2482
開館日 月・火・木・金 : 9:00~21:00
水・土 : 9:00~17:00
休館日 日曜・祝日、年末・年始
総合教育センターHP <http://www.itamed.jp/>

<教育相談>
電話 072-772-6171 (電話相談)
072-780-2484 (来所相談)
お子様に関する様々な悩みや課題、
問題等の相談に応じています。
(来所・電話相談)
月・火・木・金 : 9:00~18:00
水・土 : 9:00~17:00

こまったことがあったらすぐ相談

兵庫県教育委員会
ひょうごっ子SNS悩み相談
LINEを使って利用できます

